

ゴミなくしタイムズ

第6号

くまもとから少しでも「ゴミなくし隊(たい)」です。

を

平成21年3月31日発行



私たちゴミなくし隊！！ ～こんなことをやっています～

ゴミなくしタイムズ第6号の特集では、ゴミなくし隊のメンバーの日頃の活動や想いを紹介します。熊本から少しでもごみをなくすため、私たちと一緒に活動してみませんか？



ゴミなくし隊代表
宮北 千恵子

・自治会役員

「市から、あれもして、これにも協力してくれと言われて、追いまくられとる。ごみ減量や、ごみステーションのことは気になっとるばってん、手がまわらんたい。」

・環境美化推進員

「ごみの日じゃなか日に出したり、他の地区の人が通りがかり車でポーンと捨てていったり、ゴミだしのルールを守らん人が多くて・・・」

・市民

「他の市の友達から、熊本市はまだプラスチックの分別はしとらんと？出してあるゴミの量の多かね～！と言われて恥ずかしか。市はもうちょっとちゃんとしてほしか。」

熊本市民は今のままで、ごみを減らさないでいいとか、ごみ出しのルールを守らなくてもかまわないとか思っていません。なんとかしなければと思っています。

でも、現実には問題山積。

これに負けず、熊本市に住んでいる人は、皆熊本市民としてごみ減量を考えあい、ごみゼロの熊本市になるといいですね

私は2007年、2008年と環境フェア実行委員をさせていただきました。環境フェアはエコパートナーくまもとの各WGが一体となって行うイベントであり、各WGとの連携が大切だと実感しました。WGには「ごみ」だけでなく、「水」や「緑」など様々なテーマがあり、環境フェアに参加するということは、自分のWGを紹介するだけでなく他のWGの活動について知り、学ぶ機会でもありました。

私は活動を通して、一人でも多くの人に「環境問題」を身近な問題として認識してほしいと思っています。大学時代、私の活動を知った友人が「家でお母さんが紙の分別をするようになった」という話を聞いた時は、自分の役割を実感できた瞬間でした。これからも私自身が動くことで、身近な人たちから意識を変え、行動につなげていけたらいいなと思います。



中野 美恵

★エコたま隊の活動について★

大津町とゴミなくし隊との情報交換会の際、大津町の環境ボランティアグループ「4R白川」の活動について知りました。

活動のひとつに年に4回大津町の小学校で行われる集団回収があります。その際、子どもたちが中心になって回収しているものが、空き缶のプルタブとペットボトルのキャップです。集められたキャップはリサイクル業者や関係団体などを経てワクチンへと変わり、世界の子どもたちに届けられます。エコたま隊という名称で活動しており、私と園上さんは一緒に活動させていただくことになりました。

大学内でも大量のキャップが集まるのではと考え、学内にキャップ回収のためのボックスを取り付け、回収作業を行いました。

大津町での集団回収の際に環境学習の時間が設けられており、子どもたちに向けて、活動はどんな人々の役に立っているのか、どんな流れでワクチンに変わるのかなど説明をしました。

子どもたちと一緒に活動しながら、私たち自身改めて環境問題への取り組みや考え方など、勉強させてもらいました。

ゴミなくし隊の活動は、私の大学生活での活動の視野を大きく広げてくれました。いろいろな場所に行き、たくさんの人に出会い、たくさんの人々とながりを築くことができました。そんな機会を与えてくれたゴミなくし隊にとっても感謝しています。



中島 藍子



西坂 佳良子

ゴミなくし隊に入って、初めて環境フェアに参加しました。何もかも初体験で、すごく新鮮な雰囲気味わうなかで熊本のゴミや環境の現状にとっても興味を持ちました。少しでも今の状態を改善する手助けをしたいと感じ、これからの活動に積極的に参加していこうと考えています。

まずは自分の生活の中から出来ることから初めて行こうと思います。環境に良い生活と人々の繋がりを大事にして生活していきたいです。

熊本市では、「持続可能な循環型社会」の構築に向けて、21年10月から「家庭ごみの有料化」が実施されます。

対象ごみは、「燃やすごみ」と「埋立ごみ」で、指定収集袋を購入しそれに入れてごみを収集場所に出します。

ゴミなくし隊は、有料化により得た「財源」を、ごみ減量・リサイクルの推進のための施策に活用すべきであると、提言してまいりました。

有料化による財源の「具体的用途」としての主な施策は以下のとおりです。

プラスチックの分別収集と、リサイクルする仕組みの構築を検討する。

生ごみを資源とした、堆肥化やエタノール化について検討する。

ごみ焼却灰の一部を、セメントの原料としてリサイクルすることを検討する。

その他、資源物の拠点回収の拡大等、施策の早期の実現を要望してまいります。



東 美千子

マイボトルを持とう！！

『マイボトル』って何？と思われる方がほとんどだと思います。言葉は知らないけど、いつも自分の家からお茶や水を持ち歩いているといわれる方は、たくさんいらっしゃると思います。

特に、熊本の水道水はミネラルウォーターとして販売されている程おいしい水です。わざわざペットボトルに入っているお茶や水を買わず自分の家から好きな容器に入れて持ち歩くのってかっこ良いかも!?

ペットボトルをリユースしても……。私は今、娘が使っていた少し赤色が剥げたステンレスボトルを持ち歩いています。

今日もバッグの片隅にマイボトルを入れて「行ってきまーす！！」



三島 美枝



西村 雄一

2008年11月24日～11月27日にかけて、「環境ネットワークくまもと」主催の「韓国廃棄物事情」視察研修に参加しました。視察の中で最も印象に残った二つの事情を紹介します。

韓国では紙袋、ビニール袋全てのレジ袋を無料で配布しないという制度が1999年に採択されました。また、ファストフード店の使い捨て用品も無料で配布しないという制度が2003年から実施されていました。

しかし、2008年に政権が変わったときに、この二つの制度は改廃されてしまいました（現在はビニール袋のみ有料）。理由は国民に対する負担が大きすぎたということのようである。環境問題を解決するためには、ある程度の国民の負担が必要であるが、その場合、国民に対しての負担に見合ったメリットも必要なのではないだろうか。そうでないと国民のモチベーションが長続きしないであろう。

韓国の飲食店においては「もったいない」という文化がない。韓国で大切にされているのは来客者を「もてなす」という文化だ。そのため食卓上に残ることを前提に、わざと食べきれないほどの量の料理を提供する。飲食店では相当な量の生ごみが発生しているはずである。一方、韓国にはないが日本には割り箸という文化がある。自国の文化を理解した上での廃棄物政策が重要となる。自国の文化を理解するということは他国の文化を理解することだと感じました。

ゴミなくし隊での活動によりごみ減量、ごみの有効活用については多くのことを考えさせられました。

特に環境フェアでは会場に来場された方々にアンケートを行いました。印象的だったのはごみ有料化の賛成という意見が多かったということです。当時熊本県の熊本市以外の自治体では全てが有料化であったため、熊本市以外の地区の人々からは熊本市は遅いなどのお叱りを受ける場面もありました。環境フェアの来場者は多くの方が環境問題に関心がある人がほとんどだったと思います。これが下通り・上通りなどの中心市街地・住宅街であると、また違った結果が出たのでは無いのでしょうか？それに、年齢別の環境意識をどうなのだろうと感じたので次回もしこのような機会があるのでしたらその点も考慮したいです。

熊本市が環境問題への取り組み発信基地となるべく、5Rの促進、マイボトル・箸・バックの持参率アップなど無駄をなくして考えて、知恵を絞れる社会ができれば良いと思います。



甲斐 健也

平成20年度のゴミなくし隊の活動について

	活動項目	活動内容
5月	大津町訪問	大津町でのごみ減量などの取組みに関する情報交換
	「ラジオで学ぼう！ECOライフ」出演	ゴミなくし隊の活動や「ロックDEお茶」について紹介
	ごみゼロの日環境フェスタ2008 ブース出展	「ロックDEお茶」試飲コーナーの出展
7月	生ごみリサイクル先進地視察バスツアー	福岡県大木町の生ごみメタン発酵施設と循環型農業を営んでいる農家を訪問
10月	下関市からの視察受入	
11月	延岡市からの視察受入 環境フェア2008 ブース出展	
1月	小郡市からの視察受入	
毎月	定例会議	
	マンションモデル紙資源集団回収	



大津町訪問



ごみゼロの日環境フェスタ



環境フェア2008



大木町バスツアー

「ゴミなくし隊」とは、市民、事業者、熊本市が一体となって環境保全に取り組む「エコパートナーくまもと」のワーキンググループのひとつです。平成18年度には3回の「ごみなくしたい！」公開市民討論会を開催し、市民宣言「熊本市民はこうしてごみを減らします！」を発表しました。現在は市民宣言の実現化に向けて、毎月1回の定例会議などのさまざまな活動を行っています。

この紙面に書いてある内容及び「ゴミなくし隊」の活動などについてのお問い合わせは ゴミなくし隊事務局（熊本市環境保全局環境事業部廃棄物計画課 電話：096-328-2359）までお願いします。